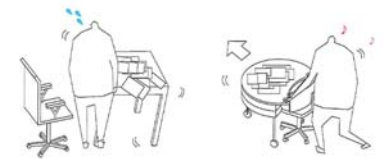


□concept

新しいワークプレイスの考え方の多くは、人々のコミュニケーションにはかり関心を向け、モノに対する意識が低い。ネットワーク化が進んでも同じ空間に集うことの価値をモノのあり方から考える必要がある。そこで、「思考のMAP」としてのデスクを持ち運ぶという極めてシンプルな仕組みを軸とした新しいワークスペースのあり方を提案する。

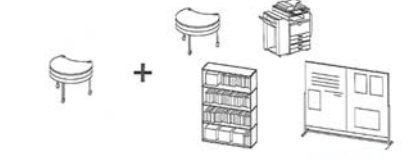


□diagram「思考の継続性」

規格化されたデスクが並ぶオフィス。机上にはそのひと独自のワークスペースが構築されている。他人にとっては意味がなくても、本人にとってデスクは知的活動を支援する重要な「思考のMAP」なのである。業務ツールのモバイル化やネットワークのワイヤレス化によって限られた空間を有効利用するフリーアドレス。多様な仕事環境を選ぶメリットがあるが、机上を片付けるルールは机上に支えられた思考を分断するため知的生産性にとって大きな足かせである。



□diagram「環境をつくり変えること=スイッチ」



快適な環境は個人で異なる。均質な環境や、機能を決めて環境をつくるのではなく様々な条件の環境を選択できることが大切である。デスクを移動する行為がONからOFFへ、またONから別のONへ切り替える仕組みとして作用し、環境の変化がその効果を増大させる。

□diagram「コミュニケーション=知識創造」

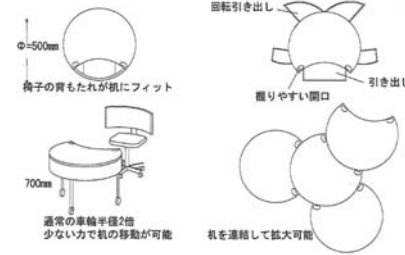


机と机を繋げる行為は互いの思考過程の理解と共有を容易にし、コミュニケーションの質を向上させることが期待される。

□table detail

「新しいカタチ」

持ち運ぶことを考えると矩形の既存デスクの形態に必然性はなくなる。移動のし易さや他のデスクとの接続方法の多様性から、ラウンド形状が好ましいと考える。ラウンドデスクの配置がもたらすワークスペースはモバイル性や拡張性といった新しい合理性の尺度で語られる。



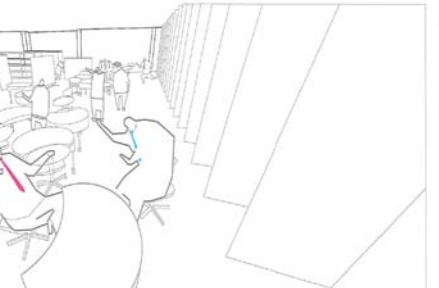
机を連結して資料を広げながらミーティング



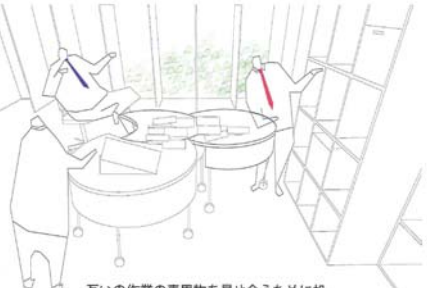
パーテーションで分かれた環境で個人の仕事を



資料を見ながら仕事をする



窓際の温かい日射しを浴びながら



互いの作業の青果物を見せ合うために机を連結する